
この世でたった1人の片割れに

成瀬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この世でたった1人の片割れに

【Nコード】

N4225P

【作者名】

成瀬

【あらすじ】

前世では、世界一の殺し屋と、世界一の天才が、異世界で双子の神の見習いになる話。

主人公最強系です。

プロローグ

世界一と謳われた殺し屋は自分の部屋の椅子に座っていた。

側に置いてある黒く光る2丁拳銃。

それを撫でながらお世話になったなあ、なんて思いながら最後の煙草を吸う。

「よし、そろそろか。」

殺し屋は満足げな顔をして
自分のこめかみに片方の拳銃を当てる。

「じゃあ、俺はリタイアするけど、お前は頑張れよ。…。」

破壊音。

殺し屋の頭が右に傾く。

彼の手から拳銃が滑り落ちた。

世界一と称された研究者は屋上に向かっていた。

「はあ、はあっ、」

階段を駆け上る彼の後ろには追いかけて来る大勢の職員。

奴等が追いつくまでには屋上に辿り着かなければ。

その思いしかもう彼には残っていない。

『バァン!!』

屋上のドアを開けて、フェンスを飛び越える。

深呼吸をして、落ち着いてから振り向く。

奴等は固まっていた。

まさか死ぬつもりだとは思っていなかったんだろう。

今までの恐怖の対象でしかなかった奴等がひどく滑稽に思え、彼は自嘲の意味をこめて腹の底から笑う。

そして、

飛び降りた。

そして現在に至る。

「は？なんで俺生きてんの？返答によったらぶっ殺す」

「そうだ、というか此処は何処だ？お前は誰だ？一体何がどうなってる？」

さっき一度死んだ2人は

例の黒い空間で神様に会った。

この物語は所謂、異世界トリップの話である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4225p/>

この世でたった1人の片割れに

2011年7月26日00時26分発行